



2023年8月
夏季号外

社会民主党福島県連合石川総支部版

発行所

社会民主党全国連合機関紙宣伝局

〒104-004 東京都中央区湊3-18-17

マルキ複本ビル5F

電話代表 03 (3553) 3787

ALPS処理水『汚染水』の 海洋放出をやめよ!!

東電と政府は、東京電力福島第一原発事故後に発生した熔融核燃料冷却水と地下水などの多種の放射性物質が含まれた混合汚染水をALPS装置で処理した処理水を漁業関係者や県民多数の反対にもかかわらず、8月中にも海洋に放出しようとしています。

東電と政府は、ALPS処理水の安全性をアピールしていますが、このALPS処理水（以下、汚染水と言います。）には、トリチウム以外にもセシウム134・137、ストロンチウム90等の主要7核種などが含まれ、ALPS装置ではすべての核種を除去できません。いくら海水で希釈しても放射性物質は残ります。

「微量でも放射能」です。放射性物質が存在すること自体が問題であり、地球環境に関わる大きな問題です。

政府や東電が言うように、本当に「安全だ」とは言い切れません。私たち県民の安全が保障されていない事態にあります。

トリチウム汚染水の海洋放出の懸念は、漁業ばかりではありません。風評被害がさらに拡がり農林畜産業や県内の全産業に影響が及ぶ恐れがあります。

第一原発事故以来、県内の産物の価格が不当に下げられ続け、未だに福島県産物を敬遠する人々がいる事実も世論調査で明らかです。この責任を誰が取ってくれるのでしょうか？

被災者に対する補償は当然のことです。私たちは「**漁業を守れ！安全は当たり前！心から安心できる生活を！！**」と言っているのです。

海洋放出は今だけの問題ではありません。私たちの子々孫々の問題です。

ALPS処理水（トリチウム汚染水）の海洋放出を止めさせましょう！

* 福島で汚染水海洋放出中止を求め 東京電力交渉 *

脱原発県民会議等の政府交渉10団体は6月12日(月)に福島市で50名が参加し、東京電力交渉を実施しました。

交渉は、2月に東京の開催からの懸案課題があり、関係者との約束違反や東電の運用方針や実施計画違反など、激しく東京電力を追求し東京電力は「持ち帰り今月中にも再回答する」と答弁しました。

○ 質問1 「関係者の理解なしにはいかなる処分もおこなわない」文書確約について

関係者の理解なしに、放出に向けた海底トンネルの建設工事や様々な準備作業を強行に進めていること自体が約束違反です。即刻、これらの作業を中止し、海洋放出の方針を撤回すべき。

● **東電回答** 約束違反とは考えていない。政府方針、認可、事前了解を得て工事を始めている。関係者の明確な線引きは難しい。

○ コメント

東京電力は漁連と文書確約をした自覚を欠いている。関係者の範囲を曖昧にして責任放棄をしている。再回答を求めた。

○ 質問2 サブドレン及び地下水ドレン運用方針、福島第一原発 特定原子力施設の係る実施計画について

希釈しない、排水しないと定めた運用方針に反する。

● **東電回答** トリチウム濃度が基準を超えタンク貯蔵しているものは無い。水位を保持するために地下水ドレンの汲み上げをタービン建屋に移送したものである。

《 まとめ 》

約束違反や理解できない説明に終始し、東京電力への不信は強まる一方で、海洋放出中止を強く求めました。
(脱原発県民会議事務局資料から抜粋)